

明日青ニュース



「明日青つとどい2025」開催される！



齋 清志会長



丸山勝利町議会議長



大河原警察署生活安全課
佐藤 友博課長

令和8年1月24日（土）13時30分から大河原町中央公民館において小中学生の保護者、乳幼児をもつ保護者、地域の方々など、約110名の皆様にご参加いただき、『明日青のつとどい2025』を開催いたしました。

開会行事において、齋 清志会長（町長）の開会の挨拶では、「明日の青少年を育てる会」において青少年の健全育成に向けて、今後もお集まりの皆様のご協力をいただき取り組んでいきたいとのあいさつがありました。大河原町議会議長丸山勝利様、大河原警察署長代理生活安全課長佐藤友博様からは、青少年の健全育成に向けての活動に期待するとのことのご祝辞をいただきました。

また、佐藤友博様からは「最近の青少年非行の概況」について、大河原警察署管内の少年非行の状況等を分かりやすく教えていただきました。昨年度比較で減少しており、皆様の協力が大切であると講話をいただきました。

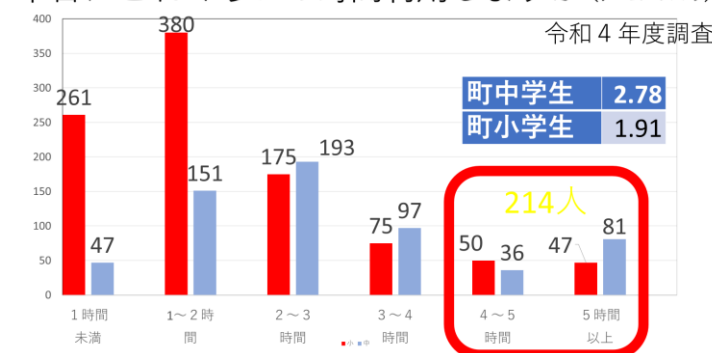
「おおがわらルールから10年」

これまでの10年間の取組を相談員から説明を行いました。スクリーンタイムを大幅短縮した成果の部分と生活習慣を改善させる難しさの説明をしました。スクリーンタイム、睡眠時間は、学力に影響することをデータで示し、長時間使用の児童生徒が不登校傾向にあることや落ち着きのない児童の増加にも関係があることについても説明を行いました。

今後もおおがわらルールやおおがわらデジタルメディアスローガン、各校のルールを大事にしながら、長時間使用から抜け出せるように働きかけていきます。

親子で聞けるマツスペースや託児所を開設し、よい睡眠を得るためのパネルコーナーの設置を行いました。

平日にどれくらいの時間利用しますか (ゲーム・スマホ) 令和4年度調査



講演会「生活習慣が子どもにもたらすもの」

-デジタルメディアとの関わりで変わる子どもの発達と教育- 講師 東北大学病院小児科医師 植松 有里佳氏



東北大学病院小児科医師の植松有里佳先生から5歳と9歳の患者の事例の説明を通し、ゲーム依存症の状態になった子どもを回復させるのは医師としても難しく、努力して投げ出さないで向き合った事例の紹介をされ、親も教師も正面から向き合い、対峙することの大切さを感じました。講演内容は全て大事なことでしたが、要点をまとめると、

- ① 2歳までは、メディアを控える。2歳以上は2時間以内。ゲームは30分まで
- ② ゲーム依存症など人との関わりを持つことが少なかった子供は、行動異常、無気力・無関心、視力低下・急性内斜視が起こることがある。
- ③ 睡眠不足による子供の症状は、「朝、学校に行きたくない」「朝、だるい、疲れる」「朝ご飯を食べられない」「便秘」「集中して勉強ができない」「我慢ができない」「抑鬱気分」「イライラして切れやすい」「体温異常」など発達障害に類似した症状が出る。

子供は、順応性があるので3日間のメディアゼロ生活を送り、本気で保護者、周りの大人が子供と遊び、家事、料理をして一緒に食べ、遊び、過ごすことができたならば、子供は大きく変化するという事です（大人の依存症とは違う）。おおがわらルールから10年の経過は、10年前の中学生が親として、「おおがわらルール」を経験していると思います。その積み重ねを大事にして今後とも取り組んでいきたいと結ばれました。

「閉会行事」

講評と御礼の挨拶では、鈴木洋教育長が、「植松先生に3年に渡り大河原の子どもたちのためにご講演をいただきました。デジタルメディアが、子どもたちの生活習慣や発達にもたらす影響についてご教授いただきました。少しずつじっくりと浸透できるように進めて参ります」と結ばれました。

佐藤由利香副会長からは、母親の視点でデジタルメディアを活用しながら使い方を考え、子どもたちの使用を見ていきたいと話していました。



鈴木洋教育長



佐藤由利香副会長